

# 福島県の留学生

第14号

International Students of Fukushima Prefecture



## 福島県留学生交流推進会議

事務局：福島大学事務局教務課  
住 所：〒960-1296 福島市金谷川1番地  
電 話：024-548-8055 FAX：024-548-8224

福島県留学生交流推進会議



## 福島大学における国際化と 国際理解教育の進展

福島大学長 臼井 嘉一  
Yoshikazu Usui



福島大学の国際化において、外国からの留学生の受け入れや、学生の海外への様々なレベルでの留学も重要な位置を占めております。

留学生の受け入れ・派遣を通じた留学生交流は、グローバル化する経済・社会の中でますます重要となる我が国と諸外国との間の親密な人的ネットワークを形成するとともに、相互理解の増進や友好関係の深化を図る上で、非常に効果的であることは申し上げるまでもないことです。

また日本人の海外留学は多様なニーズに応じた教育研究の機会を提供します。特に外国語運用能力の向上をはじめ、国際社会の一員としての日本に対する理解の深化、異なる文化に柔軟に対応できる能力を備えることを可能とするものです。

福島大学の外国人留学生は現在132名ほどで福島県高等教育機関の受け入れとしては最も多いが、その内訳は圧倒的に中国大陸からの留学生が占めて118名ほどであり、次いで韓国、さらに台湾、モンゴル、オーストラリア、ペルー、マレーシア、英国などとなっております。

留学生の内訳からもうかがえるように福島大学の外国姉妹大学は中国で4大学、アメリカで2大学、カナダで1大学、オーストラリアで1大学、ベトナムで1大学となっております、この姉妹

大学との交流をコアとして、さらなる留学生の量的拡充とともに、その質的充実のために大学として努力していく必要があります。

また、留学生の受け入れと派遣の双方において今後重要な課題となるのは、双方での語学研修としての短期留学の設定であり、日本からは相手国でのそれぞれの語学研修とともに、外国からの相手国の要望に応える日本語研修や、英語等による日本理解のための講座開設などあります。

ところで、福島大学における国際理解教育の進展において必要なことは、カリキュラム全体において外国語教育等の充実とともに、1・2学年段階での外国研修や3・4年段階での外国研修の設定とその効果的履修などにも配慮して、教育・研究全体におけるいわば国際化対応への系統的整備が要請されつつあるということです。

さらに福島大学における国際化は、ひとり大学内における事業というよりも、大学外の外国関係機関と協力・共同することを通しての事業というように捉えなおして、多くの方々の協力を得るとともに、我々も可能な限り協力していく必要があります。

「新生福島大学」は、国際化対応においても多くの課題を果たしつつあります。

## International Students of Fukushima Prefecture

### ● 福島県の留学生 目次 ●

巻頭言	1
交流風景	2
推進会議の活動	4
構成団体紹介 国際ソロプチニスト福島	5
留学生の声	
【鎌山祭からの考え】 東日本国際大学 国際経済学科 楊 陽(中国)	6
【会津で理想の翼を広げる】 福島県立会津大学 大学院 情報システム研究科 博士後期課程2年 朱 欣(中国)	7
【桑折児童館での勉強】 福島大学 経済学部1年 王 納(中国)	8
【初めての「地震と台風」を体験してみた】 福島県立医科大学大学院 医学研究科2年 刘 昱(中国)	9
【留学の感想】 日本大学工学部 建築学科3年 徐 叔偉(中国)	10
【MTSUでの留学で得たもの】 福島大学 教育学部4年 鈴木真理子(日本)	11
第10回 福島県留学生日本語弁論大会	12
優勝【内側から見た日本】 福島学院短期大学留学生 セメンチェンコ・セルゲイ(ウズベキスタン)	13
準優勝【富士登山】 福島工業高等学校専門学校 電気工学科3年 クー・シーイー(マレーシア)	14
留学生関係資料	
●外国人留学生受け入れの現状 留学生の推移	15
●地方別・都道府県別留学生数	16
●福島県内高等学校教育機関における外国人留学生の受け入れ状況	
①国費・私費別外国人留学生数	16
②国・地域別外国人留学生数	17
③留学生の奨学金受給状況	18
④留学生の寄宿状況	19
福島県留学生交流推進会議構成員・運営委員名簿	20
福島県留学生交流推進会議・同運営委員会要項	21





- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 荒川フェスティバルブース参加    | 2. 信夫山探検隊         |
| 3. 見学旅行イカの一夜干し体験     | 4. いわき市平消防署での防火教室 |
| 5. いわき市地球市民フェスティバルにて | 6. 大学祭での模擬店       |

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| 7. インターナショナルな芋煮会               |                       |
| 8. こけし絵付体験                     | 9. 第10回 福島県留学生日本語弁論大会 |
| 10. 国際交流フェスティバル“ザ・まつり in いいざか” |                       |



# 交流風景

～思い出のアルバム～



佐渡への見学旅行



ミドルテネシー州立大学でのインターナショナルパーティ



ミドルテネシー州立大学での日本文化紹介







## [推進会議の活動]

— 平成15年度 —

### ■ 留学生担当教職員研修会

【平成15年9月2日(火)】…福島大学国際交流会館

15年度は、東京YWCA留学生相談室 室長である小澤朋子氏をお招きして、留学生の現場では、どのようなことが起こっているのか「最近の留学生事情～東京YWCA留学生相談室の現場から～」と題して講演をいただいた。

参加者は15名、福島大学国際交流会館を会場として実施された。講演のあと各機関からの問題や、研修会のあり方を話し合った。この研修会は、担当者の業務の理解を深めるとともにその資質向上を図ることを目指している。効率の面からはメールのやりとりが良いと思われるが、研修会は担当者のお互いの顔の見える場として継続して実施してほしいとの要望が出された。

### ■ 第10回福島県留学生日本語弁論大会

【平成15年11月15日(土)】…いわき市 いわき東急イン

第10回という節目を迎えて、平成15年度は、初めていわき市の東日本国際大学を担当校とし

て開催された。後援は福島県等5団体に依頼、又、審査員をNHKいわき支局長等5名に委嘱した。厳正な審査を行った上、出場者14名から5名の入賞者を選出した。

### ■ 国際交流のつどい

【平成15年11月15日(土)】…いわき市 いわき東急イン

日本語弁論大会終了後、引き続き開催されたつどいでは、県内各大学の留学生及び関係者、一般市民が一同に集う年に1度の交流を深めた。

### ■ 福島県推進会議会報

「福島県の留学生」13号の発行

### ■ 福島県留学生交流推進会議及び

同運営委員会総会

【平成16年1月26日(月)】……福島グリーンパレス

県内各地から20機関が参加し、平成15年度の事業報告、平成16年度の事業計画が承認された。

平成15年度より新たな事業として、留学生の地域交流調査を実施した。

### ■ 外国人留学生の受入状況調査の実施

- 国費・私費別外国人留学生数
- 国・地域別外国人留学生数
- 奨学金受給状況
- 私費留学生の奨学金別受給状況
- 寄宿舎状況
- 留学生の地域交流



## [構成団体紹介]

— 国際ソロプチミスト福島 —

国際ソロプチミストは、実業界で活躍する女性又は、専門的な職業を持つ女性で組織される世界最大の職業分類を持つ奉仕団体です。

専門職並び管理職にある実業家として、第一線で活躍している世界中の指導的立場にある女性を結集し、ソロプチミストの目的を推進し、国際理解と親善の促進を図るために政府機関その他の団体と協力して活動します。

“ソロプチミスト”とは、姉妹を意味する“SORO”と最善を意味する“OPTIMA”という二つのラテン語を組み合わせたもので、“女性のために最善のもの”という意味です。国際ソロプチミストは、アメリカ・ヨーロッパ・グレートブリテン アンド アイルランド・サウスウエストパシフィックの4つの連盟で構成、日本はアメリカ連盟に属し、中央リジョン(京都)・北リジョン(札幌)・東リジョン(東京)・西リジョン(岡山)・南リジョン(福岡)に5分割されております。



国際ソロプチミスト福島は、北リジョンに加盟し1976年盛岡クラブがスポンサーになって全国50番目、東北で6番目に認証されました。

現在正会員30名、終身会員4名、名誉会員1名の会員数で構成、活動に励んでおります。

活動は、ソロプチミストの目的に近づくための理解・促進・活動が柱になります。本年は“広げよう奉仕の絆と友情”―輝かしい未来に向かって―をターゲットに北リジョン研修会、日本財団年次大会等通してリジョン、他クラブとの交流の中で自己研鑽に励み、そこから活動に波及するのです。

かつては女性の地位向上のために努め、今混沌とした世界情熱の中で人間理解の精神と世界友好に貢献したいと切に願っております。





## 鎌山祭からの考え

東日本国際大学  
国際経済学科

楊 陽 (中国)



いつの間にか、もう日本に来て三年が過ぎた。時間の早さを十分感じる。過去の日々を振り返ると、学校と生活からいろいろなことを学んだ。大学は、自分の望む事を自由に出来る場所である。だからこそ、人生の中で、一番楽しい時間は大学時代ではないか。

学生生活の一年の中で、一番にぎやかな時は鎌山祭のころである。鎌山祭は毎年の10月下旬の土、日曜日に開催する。主なイベントは、百人ほどが参加して平の町中を歩く仮装行列、軽音楽部によるライブほか、早食い・早飲み競争、カラオケ大会、ベストカップルコンテストなど、また模擬店は26店舗以上。焼きそば、焼き鳥、カレーライス、お好み焼きなどの定番はもちろん、留学生らによる各国の料理の模擬店もある。とにかくその日の主役は学生だ！

一番印象に残ることはゼミの日本人の仲間と一緒ににおにぎりを作って、商売したこと。その時、留学生としての私は日本料理の作り方はよく分からないので、すごく心配だった。でも、日本人の仲間は親切に教えてくれた。ご飯をふっくらと、中に梅干しを2等分して入れ、やさしく握って、におにぎりの表と裏に味噌を塗る。



そしてトースターで焼く。表面がからっとしたら完成！日本人の仲間との交流はとても楽しかった。お客さんが自分で作った焼きおにぎりを買って食べている。それを見ている私は非常に嬉しかった。われわれ留学生にとって、鎌山祭は異文化交流のいいチャンスだ。それは、今後の仕事にとって、非常にいい経験だと思う。

大学では勉強だけではなく、たくさんの友達を作るも大事なことである。それぞれの国には、文化、価値観などの違いが当たり前が存在するが、今日のグローバル社会では、こうした人たちと交流があるからこそ、自分を豊かにできるといっても過言ではない。この3年間、とても楽しくかつ充実した留学生活を送ることができた。これからもたくさんの出会いを待っている。

日進月歩の情報化社会、そして21世紀国際化社会を生きていくためには、常に新しい感覚で現実をとらえ、自己を確立することがますます大切になってくるだろう。一人ひとりが主体的に行動出来るように、自己を磨くこと、つまり、自己を改革し、新しい自分の形成を目指すというのが、われわれ留学生の目標ではないか。自分の夢のために、奮闘しよう！



## 会津で理想の翼を広げる

福島県立会津大学 大学院  
情報システム研究科 博士後期課程2年

朱 欣 (中国)



一番有意義で素晴らしい人生とは夢を追い続けるものだと考えています。私は古人のような偉大な夢を持っていませんが、研究者として「自然界の謎」を解くことに大きな感性があり、自分の生体医工学の研究開発に没頭できることを望んでいます。しかし、良い研究の環境、優秀な先生の指導、調和した人間関係はどこにもあるものではなく、非常に珍しくて得にくいものだと思います。

私は1年半前に日本にやってきましたが、その頃は日本語が全然わからなかったし、将来への不安と一人の孤独感が時々私を襲いました。しかし、会津での生活が少し長くなると、最初の頃の不安な気分は全部消えました。私が勉強している会津大学は、「知」の社会でリーダーシップを発揮する人材を育成するために、世界に誇る良い研究開発のためのコンピュータ環境を提供してくれています。大学には、沢山の外国人

の先生と留学生が集まり、英語を共通語とする、やはり国際的な新しいタイプの大学だと思います。指導教官の魏大名先生は、福島県の知的クラスタの研究開発を進めていますが、日本のお年寄りの為に、遠隔医療と心臓シミュレーションシステムのいずれも最先端の技術の研究に専念しています。大学院生に対して、よく丁寧に指導し、自分の知識と経験を学生に十分伝えるようによく頑張っておられます。そのほか、学生として、先生の人格的魅力はずっと私に影響し続けると思います。会津大学には週一回の日本語の授業がありますが、日本語の先生達は私によく辛抱強く、真面目に標準的な日本語を教えてくださいます。ますます、日本語の聞く、話す、読む、書く能力を身に付けることができます。そして、日本人と交流することができたおかげで、日本社会と日本人への理解が深まりました。日本の友達と一緒に山に登ったり、国際交流活動をしたり、中国のことを教えたりします。

今の私は来た頃の不安と寂しさが全部なくなりました。良い研究の環境、優秀な先生、調和された人間関係があり、会津は私の理想の翼を広げる場所です。将来、私にとって、会津での生活はかけがえのない思い出になるでしょう。







## 桑折児童館での勉強

福島大学 経済学部1年

王 納 (中国)



「ニーハオ」皆さんこんにちは！

「ニーハオ」は中国語で「こんにちは」という意味です。私たちが初めて使った中国語です。

今年の8月2日桑折児童館にいきました。44人の日本の小学生たちと一緒に勉強しました。元気で明るい子どもたちと一緒に楽しんだり、中国の「ジャンケン」を教えて遊んだりしました。

子どもたちともすっかり仲良くなり、中には中国へ行ってみたいという子どももいて、もっと話したりして仲良くなりたいと思いました。

小学生たちはきっとはじめて外国人と話をしたと思うので、興味を持ってきて、中国の小学生たちの生活を知りたいなどいろいろなことを聞いてくれました。

中国の子供たちも毎週月曜日から金曜日まで学校で授業をしています。土曜日と日曜日もし休めない子供たちもたくさんいます。みんなは自分が学びたいことを頑張っています。ピアノとか英語とかバイオリンなど…今は社会の競争が激しいので、小さい頃からたくさんのお子さんを身につけなければなりません。遊びに関しては日本とあまり変わりません。日本の漫画はとてもすばらしいので中国の子どもたちもみんな見えています。

いろいろと話をした後、みんなで自分の理想を言い合いました。医者になりたい、先生になりたい、北極にいきたい、英語・中国語を勉強したいなど、様々なものがありました。その中でひとりの子どもがイラクに行って、子供たち

にオモチャをあげたい、みんなと遊びたいと言いました。私はとても驚きました。子どもたちは純粹であり、人と話すときにも誠意があり、とても感動しました。

昼はみんな一緒にごはんを食べました。みんなはお母さんが作ったお弁当を持ってきました。とても素敵なお弁当でした。そういえば、日本のお母さんが弁当を作ることは日本の文化の一つで、中国の学生たちはほとんど学校の食堂でごはんを食べています。栄養をなかなかバランスよく取れないので、日本のお弁当の文化はとても良いものだと思います。

一日も短いもので、あっという間に帰る時間になってしまいました。子どもたちからたくさんプレゼントと手紙をもらい、その温かさがとてもうれしかったです。

桑折児童館を出るときに子どもたちは窓やドアの前から元気いっぱいに見送ってくれて、とても感動して涙が出そうでした。私も日本語の勉強をもっともっと頑張りたい子どもたちとずっと話せるようになりたいと思いました。

今回の交流活動は

- コミュニケーション能力を養う
- 思考力を高める
- 思いや視野を広める

というものでしたが、子どもたちの純粹さと、勉強に対する姿勢を見て強く心を打たれました。私にとって有意義な一日でした。



## 初めての「地震と台風」を体験してみた

福島県立医科大学大学院  
医学研究科2年

刘 昱 (中国)



月日はあっという間に過ぎてゆき、日本に来てから早や2年が経ちました。初めて見た福島の景色は美しく、緑が多く、空気も爽やかでした。また、中国とは異なる街並に期待でいっぱいでした。しかし、すぐに、ひらがなも分からず、英語での交流もなかなか難しく、日本で留学生活を続けるのは大変だと実感しました。言葉の通じない初めての一人暮らしは淋しく、理解できないことばかり。そんな時、中国にもある“郷に入っては郷に従え”ということわざを思い出して日本を勉強する決意を固めました。それから、新たな気持ちでの留学生活が始まりました。大学の先生や周りの友人にとっても親切にさせていただき、温かい思いやりと優しさで私を励まして下さったおかげで日本での生活に早く慣れることができました。感謝申し上げます。

日本で多くの新しい経験をしました。その中でも、地震と台風はとても強く印象に残っています。



ます。日本に来る前に日本は地震の多い国だと聞いており、少しは心の準備はできているつもりでしたが、実際に地震を経験したときは大変驚きました。初めて体験した地震は夜中眠っている時に起こりました。ベッドが揺れ、誰かに体を揺れ起こされている錯覚に陥りました。週末一人で研究室にいた時に地震が発生したときは、非常に恐怖を感じました。どこかに逃げようか、誰か助けを呼ぼうかと思いましたが、体が動きません。平常心を失い、ただ立ちすくむだけでした。台風も怖い思い出です。激しい雨が降り、風がひゅーっと吹き、葉っぱや枝が飛んで来ました。激しい風雨で窓から外が何も見えず、私は世の中から隔離されてしまったのではないかと思いました。

今年は大地震が起こり、台風もとても多い年でした。火山も噴火しました。多くの被災者がおられます。被災者の中には自宅を失い、避難所での生活を余儀なくされている方もいらっしゃいます。災害時、国や自治体の支援だけでなく、多くの民間支援があったことに深く感銘を受けました。支援者や被災者の頑張っている姿をみて、私も困難に負けることなく頑張っていこうと強く思いました。

The Voice

留学生の声





## 留学のご感想

日本大学工学部  
建築学科3年

徐 叔偉 (中国)

FROM CHINA

三年半前、先進国への憧れと異文化への体験のため来日しました。自分の世界を広げる良い機会となりました。日常生活では、常にさまざまな違いを感じた所ばかりに目を向けていた私は、厳しい現実と直面することになりました。私は一人で日本に来て、想像以上に大変で不安と緊張の連続でした。学校では、一人でも多くの人たちと仲良くなりたいと思っていました。しかし、仲良くなるということは思っていたよりも難しく、言葉も分からないで、何を話していいのか分からずに一日、一日と過ぎました。

日本に留学することは私の念願の夢でした。一年後に、そしてその機会に日本大学工学部を見つけ、これは私の人生の中で最大で最高の出会いとなった事は言うまでもありません。日本大学工学部はとてもキャンパスが広く、整備されていて、緑も多くて、勉強するための環境が整っています。食事の施設もさまざまで、多くの学生が授業の空き時間に体を動かします。これが日本大学工学部に来て初めて感じた学校の雰囲気でした。その頃は「期待」よりも「不安」の方がはるかに大きかったです。最初は、自分の日本語が日本人に伝わらない、彼らの日本語が理解できないという「言葉の壁」にぶつかりました。言語の問題により、大学生活に障害がなかったとはいえませんが、先生方は、私の学業に対し関心を払ってくださり、多大なご配慮をいただきました。学生生活の上では、日本人の温かな心を感じることができました。大学という場所は、単に学問だけを追求する場ではな

く、たくさんの知識に触れ、多様な考え方を育む場だといえるでしょう。

三年生の現在、建築学を専攻しています。一年次の授業は、自分に興味のあるさまざまな授業を受けていました。その中でも高齢者のためのいろいろな環境を考えていくという建築計画学、環境工学という分野になります。個人的な話になってしまいましたが、このような授業ごとの発見による視野が広がりました。学校では、授業の進め方、教授や学生の授業に対する態度、教授と学生との関係などのほかに、大学のシステムそのものにも中国との違いをたくさん感じました。実際、私も上にあげた授業以外にも視野が広がったことは何度もあります。他にも先生の言葉の中や友人たちとの会話の中など、人とのつながりの中でも視野は広がり、これらは学生生活を楽しくしてくれる要素の一つではないでしょうか。大学で新しい発見をする場所はいくらでもあります。日々、新しい発見ができる大学、それが日本大学工学部だと思います。



## MTSUでの留学で 得たもの

福島大学  
教育学部4年

鈴木真理子 (日本)

FROM JAPAN

今回、アメリカのミッドルテネシー州立大学に2003年の8月から12月までFall Semesterと1月から5月までSpring Semesterを受講しました。大学での生活での経験をして初めて気づいた日米における文化、習慣、社会構造、考え方の違いなどについて最初は戸惑い対処に困ることもありましたが、だんだんとアメリカという国に慣れ親しんで理解が深まりました。

まず、大学での授業について。渡米する前に授業についていけるよう、生活に問題がないようにと思い、事前にたくさんの英語に触れ、本を読んだり、VOAを聞いたり、在日しているアメリカ人やオーストラリアの人達と積極的にコミュニケーションを図る練習を十分にしていたと思っていましたが、やはり、渡米後、最初の3ヶ月は授業でも説明、指示で何をいっているのか分からず、ディスカッションには到底混ざれずいつもクラスメートの手助けを求めています。テネシー州は南部訛りも少し強かった地域でそれも一つの原因だったかもしれません。授業ではたくさんの読み物、レポート、プレゼンテーション、クラスでのディスカッションが課され、本当に毎日図書館に籠もり、今までこれほど勉強したことがないというほど勉強しました。調べ物や宿題、そしてテスト勉強などです。知らず知らずのうちに英語の力が伸びていたのか、自分では気づきませんでしたが、授業でも先生の質問にも答えられるようになり、ディスカッションにも積極的に参加でき、ある文学の授業で初めての詩についての一人での発表で、今まで出来ない生徒だと思われていたのがクラスで上位の成績を修めることが出来、クラスメートから「良かったよ。」と声をかけられた時は本当に嬉しかったです。そして、Spring Semesterはもっと自信が付き、勉強は変わらず大変な量でしたがもっとスムーズに出来ました。

次に、総合的な英語力の向上について。

先にも述べましたように、授業を中心に宿題などをする事について、多読はかなりしたと思います。よく最初の頃は内容が掴めず何度も読み直したり、ルームメイトや友達、クラスメートに聞いたりして、出来るだけ自分で分からない箇所を減らすよう心がけていました。リスニング力はまずは授業、友達との会話、テレビかと思えます。スピーキング力はリスニング力と相乗効果関係があり、聞けるとそれには答えられました。何をいっているのかが理解出来れば答えられたことが多かったと思います。ライティングは文章構成が本当に苦手でいつも大学のエッセー補助センターやルームメイト、友達にチェックしてもらいました。自然な文章表現や流れはやはり母国語を話す人達にはかないません。

文化や社会の違いについての理解について。

私の住んでいた寮では私だけが日本人で回りの生徒からすると異質の様に感じられたのかよく頻りに質問をされ、例えば日本人から見たアメリカ像などについて意見を聞かれたりしました。寮を始め留学中の生活では本当に自分の持っていた常識や考え方が覆され、困惑したことがあったりショックだったり、また面白いな一と思ったりしたことが多々ありました。毎日何かを発見しました。自分で感じ気づくこともありましたが、やはり、ルームメイト、そして仲の良かった友達から詳しくアメリカ事情について教えて貰いました。

辛い事もしばしばありましたがやはり2学期をしっかり授業を受けて成績を修めたいという目標、そして大学、家族、友達からの温かい応援、支援があり、本当に充実した留学を果せたと思います。貴重な体験を将来の仕事やまた生活で十分に生かしたいと思っています。

The Voice

留学生の声



第10回

## 福島県留学生

日本語

## 弁論大会

〔平成15年度〕



去る11月15日、福島県留学生交流推進会議（事務局福島大学教務課）が主催する「第10回福島県留学生日本語弁論大会」が、今回初めていわき市にて、東日本国際大学を担当校として開催されました。

この行事は、留学生の日本語能力と学習意欲の向上を図るとともに、留学生の視点による意見や要望を広く参加者に理解してもらうことを目的としています。

15年度弁論大会出場者は14名、参加者は、県内の大学・短大の留学生・教職員、推進会議を構成する県や市の国際交流の担当者及び国際交流団体関係者、一般市民など、合わせて約130名の参加がありました。アトラクションとして、地域団体からは居合道、東日本国際大学からは空手の演武が披露され、留学生は勿論のこと、一般参加者にとっても、日本の伝統文化に間近にふれた良い機会でした。

発表者は、日本での生活や自国との文化の違いや社会性のあるものなどについて、日本語でスピーチをしました。日頃の日本語の学習の成果がうかがえるレベルの高い日本語と、聴衆を惹きつける内容はそれぞれ素晴らしいものでした。

弁論結果については、以下のとおりです。

優勝者ほか受賞者には、賞状・記念品が贈られました。

## 第10回 福島県留学生日本語弁論大会審査結果

- **優勝**.....  
福島学院短期大学留学生科目履修生  
**Semenchenko Sergey** セメンチェンコ・セルゲイ  
(ウズベキスタン共和国) 【演題】内側から見た日本
- **準優勝**.....  
福島工業高等専門学校 3年  
**クー・シーイー** (マレーシア) 【演題】富士登山
- **第3位**.....  
福島大学大学院 1年  
**劉 鵬** リュウホウ(中国) 【演題】ご飯とハンバーガー
- **特別賞(アジア友好団体連絡会)**.....  
東日本国際大学 3年  
**黄馨儀** コウケイギ(台湾)  
【演題】台湾と日本、チャイナドレスそして日本語
- **特別賞(アジア友好団体連絡会)**.....  
福島大学大学部 1年  
**崔科明** サイカメイ(中国) 【演題】わたしは方向音痴



## 内側から見た日本

ウズベキスタン共和国 タシケント国立東洋学大学3年生  
福島学院短期大学留学生(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

**セメンチェンコ・セルゲイ** Semenchenko Sergey  
(ウズベキスタン共和国)

皆さん、今日は。私は中央アジアのウズベキスタン共和国から来たセルゲイと申します。タシケント国立東洋学大学の3年生で、日本語と日本文学の勉強をしています。

高校の頃ネットの日本文学についての記事を見て興味を感じ、いくつかの小説を読みました。

最初は、ロシア後の翻訳でしたが、是非日本語の原文で読んでみたいと思うようになり、大学で日本文学を専攻することにしました。

日本語の勉強をし、様々な日本の作家の作品を読んでいくうちに、一つの疑問が生じました。それは「本の中に描かれている日本と実際の日本は、同じなのか、違うのか」という疑問でした。

大学3年生になって日本へ留学できるいくつかのチャンスが訪れました。これまで自分が疑問に思っていたことを確かめることができる又とない機会だと思い、夢中になって留学試験に向けて勉強しました。

留学できる大学は東京都内の大学が多かったのですが、自分は、「本当の日本」を確かめることができる静かなところを希望し、「福島」を選びました。ですから、留学試験に合格して福島に行くことが決定したときは、言葉では表せないくらい嬉しかったです。自分がこれから出会う日本は、川端康成による「美しい日本」か、大江健三郎による「あいまいな日本」なのか、非常にどきどきしました。

日本に到着すると、自分の国とはぜんぜん違う景色に、魅了されました。日本語には「何事三度」という言葉がありますが、景色を見ることに気をとられて、到着初日だけで三度も戸口に頭をぶつけてしまいました。

初めて福島学院短期大学に行った時、多くの学生が私たち二人の留学生を見て、微笑んでくれましたが、話をかけてくれる人はいませんでした。

私は勇気を振り絞ってある学生に話し掛けてみると楽

しい会話が始まり、他の学生も会話に加わってきました。この様にして、一度に大勢の若者と交流ができ、とても嬉しかったのですが、私の話に対する最初の反応が「マジで!?!」という不思議な言葉だったので、大変戸惑いました。アパートに帰ってすぐにその単語を辞書で調べましたが、いくら探してもどこにもその意味が書かれていなかったの、驚きました。あとでその意味を知りましたが、それは私にとって若者の日本語との最初の出会いでした。

時間が経つにつれて、日常生活や勉強には慣れてきましたが、自分がウズベキスタンにいる頃に是非見たかった「日本の素顔」は中々見えませんでした。

次第に日本での勉強に夢中になって、いつしか疑問も忘れかけていました。

あっちこっちへ出かけたり、様々な催しに参加したり、色々な人たちと交際したりすることで日本を方面から見ていくうちに、一つ気づいたことがあります。私が日本に来て、一番驚いたのは、矛盾することがとても多いということです。

例えば、同じグループの学生が同級生に会っても挨拶をしない場合がある一方、祭りのときに、知らない者同志がみこしをかついで、ものすごい勢いで「ワッショイ、ワッショイ」と叫びながら、一つになることもあります。

他にも同じような矛盾をいくつか見かけましたが、だんだん理由がわかってきたような感じがします。

このようなことは、頭で理解するのではなく、肌で感じてわかることなのです。この矛盾こそが、日本の特色で、いくら小説を読んでも、実際に日本に来て、自分の肌で感じないと理解できないでしょう。

ウズベキスタンにいたときに思っていた日本への疑問である「本当の日本」を見つけるきっかけとなるであろう「自分の肌で日本を感じる」ということは留学で得た大きな収穫だと思います。

ありがとうございました。





## 富士登山

福島工業高等学校専門学校  
電気工学科3年

クー・シーイー  
(マレーシア)

日本に来てから一年半たちました。その間にいろいろな経験をしましたが、一番印象に残っているのは富士山に登ったことです。日本に来る前に富士山のきれいな写真を見て、この有名な山に一度登ってみたいと思っていましたが、去年、この夢をかなえることができました。

皆さんもご存知のように富士山は夏しか登れない山ですから、毎年7月中旬の山開き以来、数万人が挑戦しています。それで、マレーシアの留学生8人で、去年の夏休みに登ることにしました。3,776mもある富士山に挑戦するので、薬や酸素も準備しました。

山頂での日の出を見るために、5合目から夜7時に登り始めましたが、その日は登山者が多くて長い列になって歩きました。8合目に着いたのは11時ごろでした。でも、ここからが大変でした。私たちは前の日に登山口まで移動していたので、十分な睡眠をとることができませんでした。そのせいで、登りはじめるとすぐ疲れてきて、8合目に着いた時はぐったりしていました。山小屋がいくつかあったので、途中で休みながら、小石だらけの曲がりくねった道をゆっくり進んでいきました。

高く登れば登るほど頭が痛くなり、呼吸も苦しくなってきました。気温も下がって、みんな冬物のセーターを着ました。そして、友達が高山病にかかって体調が悪くなりました。山道がだんだんけわしくなってきたので、友達が「頭が痛い……苦しい……」と言って酸素を補給しました。しばらくすると「もう限界だ。歩けないからここでやめる。みんな先に行ってくれ」と座りこんでしまいました。でも一人だけ置いて行くわけにはいきません。彼を励ましなが、一歩ずつ進みました。いつの間にか私も気持ちが悪くなって、ちょっと歩いて休憩して、また歩き出すほどでした。

道が石垣に変わって、9合目に入りました。時計を見ると、もう午前3時でした。もっとがんばりたいんだけど体が

動かなくて、頂上で日の出を見るのは無理でした。それに、友達の体調が悪くて、歩くペースが遅くなっていました。でも、私たちはあきらめませんでした。日の出が近づいて列の動きが速くなりましたが、私たちは頂上からずっと離れたところに座って、感動的な日の出を眺めました。日の出を見てから、明るくなった道を30分以上登って、やっと頂上に着きました。10時間以上かけて夢をかなえたので、みんな抱き合って喜びました。

頂上は風が強く、黒い砂だらけで、写真で見た白い雪の景色とはかなり印象が違いました。正直なところ、頂上の景色にはちょっとがっかりしました。でも、日本一の山を征服したのはいい経験でした。楽しみにしていた山頂の日の出を見ることはできませんでしたが、8人全員で励まし合って登ることができました。途中で「もうだめだ」と言った友達も頂上に着いたとき、とてもうれしそうでした。つらい山道を登りきったことで大満足でした。

頂上に着くまでにつらいことをたくさん経験して、忍耐力や根気、思いやりがとても大切だということに気がつきました。頂上に登るという結果ではなく、登っていく過程に大きな意味があります。これは留学も同じで、毎日を大切にしていけば、きっとよい結果が得られると思っています。富士登山で使った杖は、他の人には汚いだけの棒に見えるかもしれませんが、私の宝物ですから、今も部屋に飾ってあります。

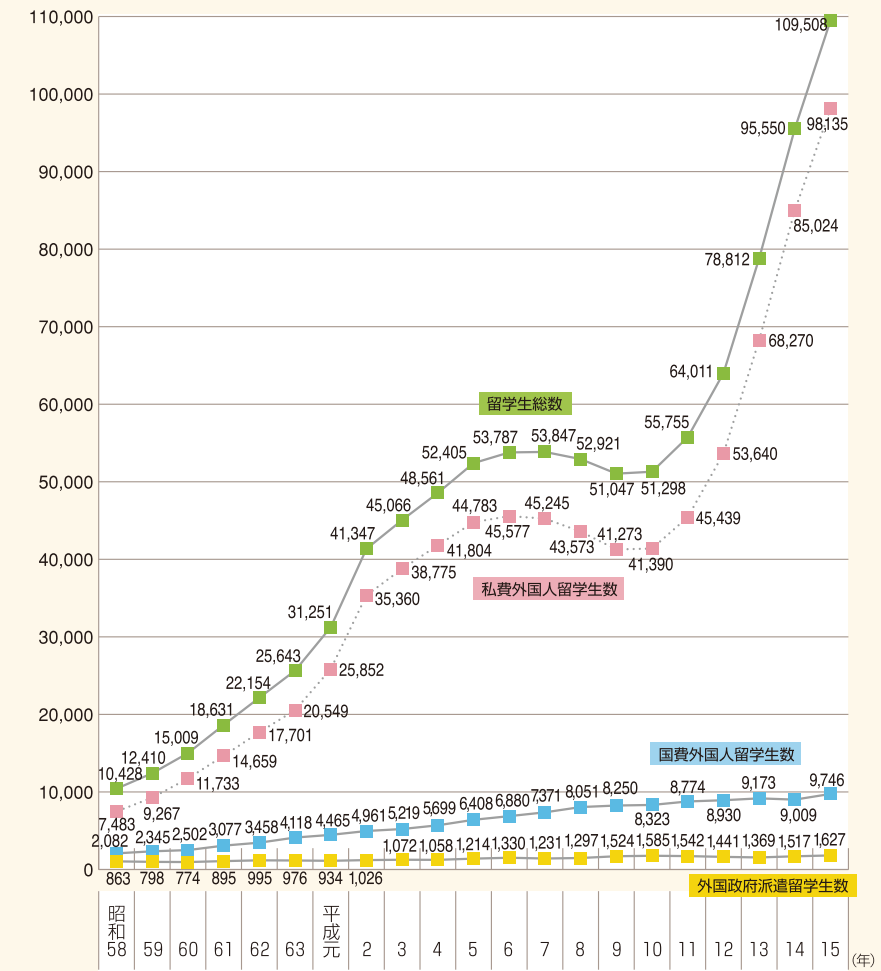


## 外国人学生 受入れの現状

我が国の大学等で学ぶ留学生は、平成15年5月1日現在109,508人で、平成14年に比べ13,958人（14.6%）増加した。これを出身地別に見ると、我が国の地理的、文化的状況もあり、アジア地域からの留学生が全体の約9割を占めている。

また、我が国の日本語教育機関で学ぶ学生は、平成15年7月1日現在42,729人で、平成14年に比べ3,524人（9.0%）増加した。出身地域では、中国、韓国及び台湾からの学生が全体の93%を占めている。

留学生数の推移 大学・専門学校等の在籍者数（各年5月1日現在）

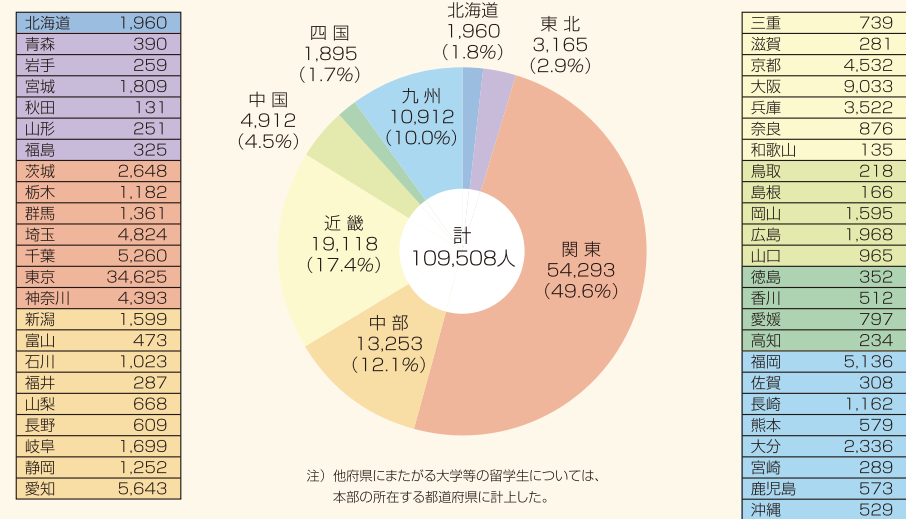


(文部科学省学生支援課調べ)



## 地方別・都道府県別 留学生数

大学・専門学校等の在籍者に限る(平成15年5月1日現在)



## 福島県内高等教育機関における 外国人留学生の受け入れ状況

### 国費・私費別外国人留学生数

(平成15年10月1日現在)

留学生の所属大学等区分	福島県立医科大学	会津大学	日本大学工学部	郡山女子大学	郡山女子大学短期大学部	東日本国際大学	福島学院短期大学	桜の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福島大学	計
国費	3	3							4	5	15
政府派遣									2		2
県費										2	2
私費	2	29	5	4	1	111	2	2		123	279
計	5	32	5	4	1	111	2	2	6	130	298

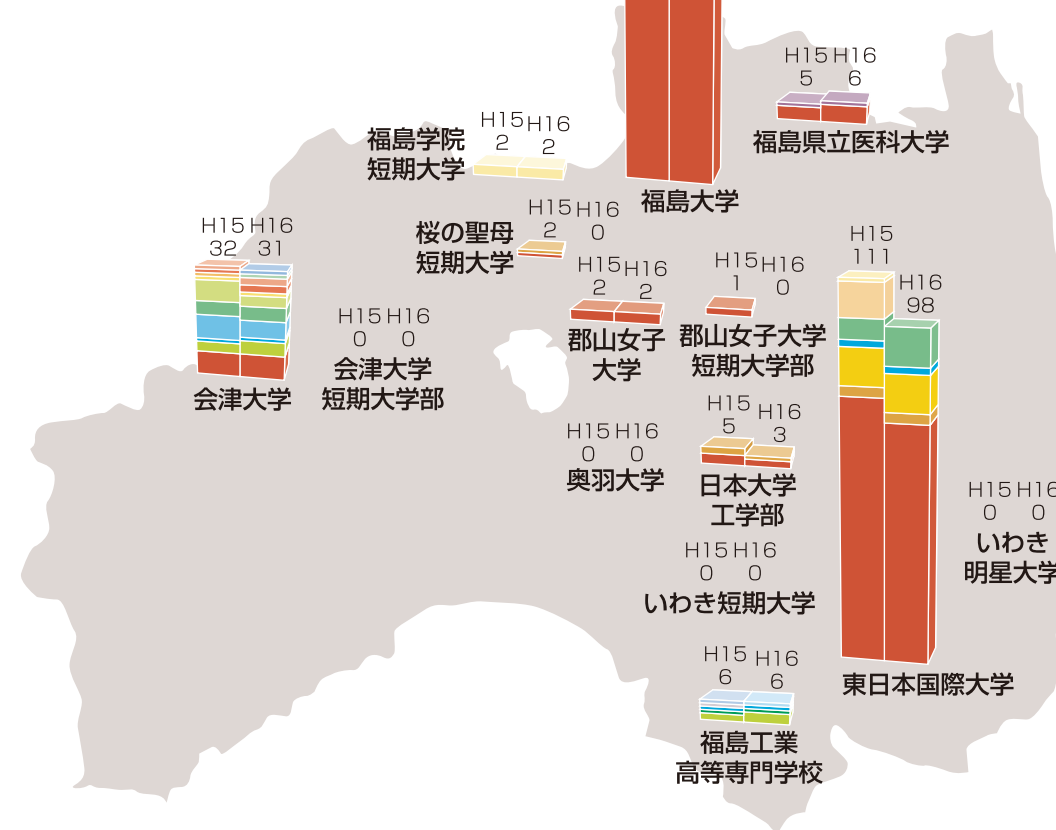
(平成16年10月1日現在)

留学生の所属大学等区分	福島県立医科大学	会津大学	日本大学工学部	郡山女子大学	郡山女子大学短期大学部	東日本国際大学	福島学院短期大学	桜の聖母短期大学	福島工業高等専門学校	福島大学	計
国費	2	5							3	6	16
政府派遣									3		3
県費											
私費	4	26	3	2		98	2			126	261
計	6	31	3	2	0	98	2	0	6	132	280

※留学生受け入れがない大学は、計上していません

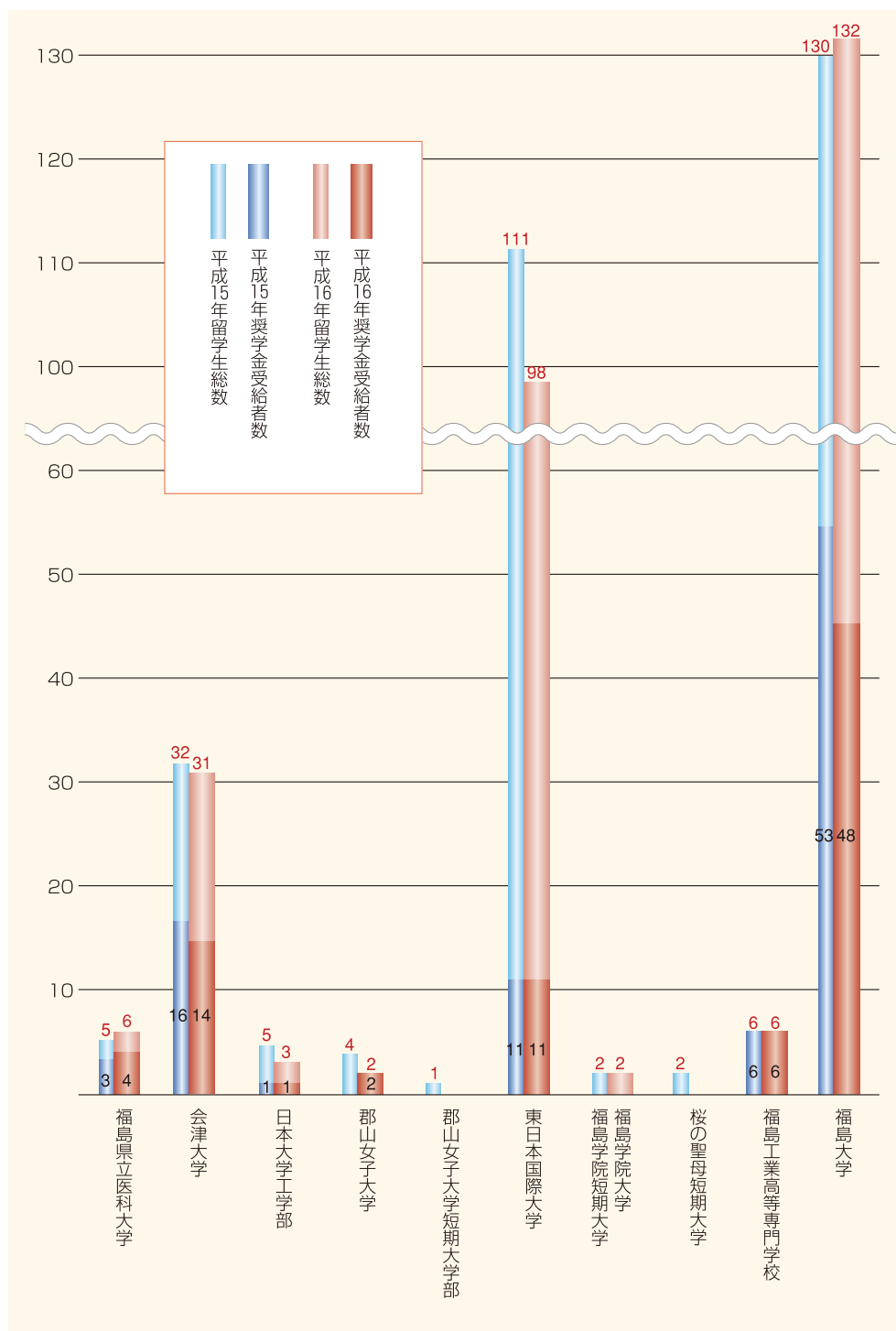
各年10月1日現在

## 地域別 外国人留学生数





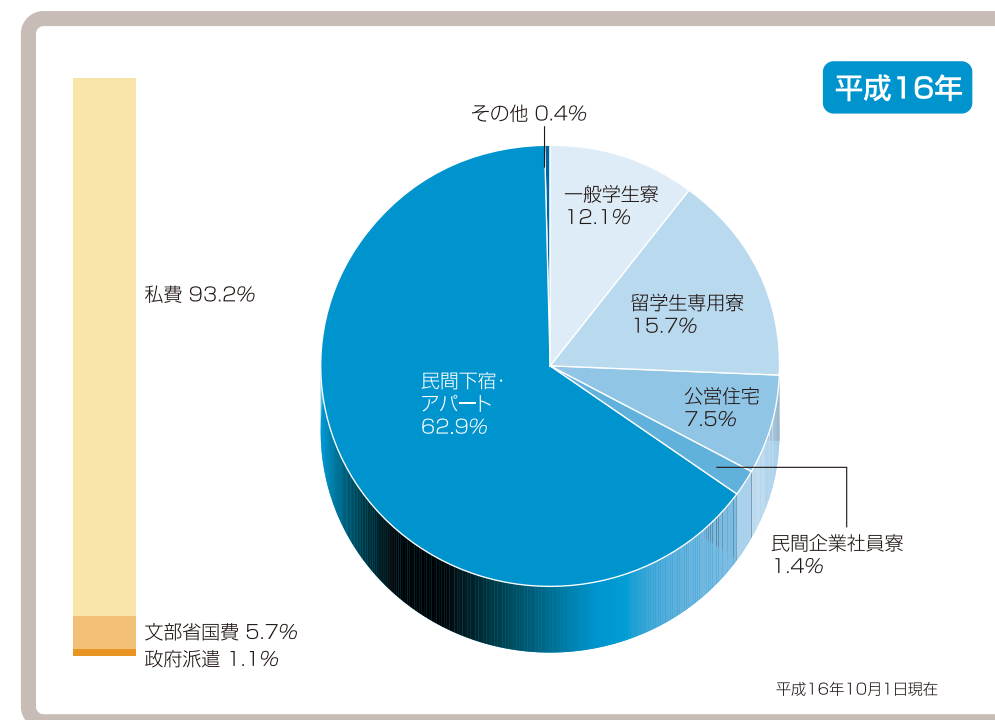
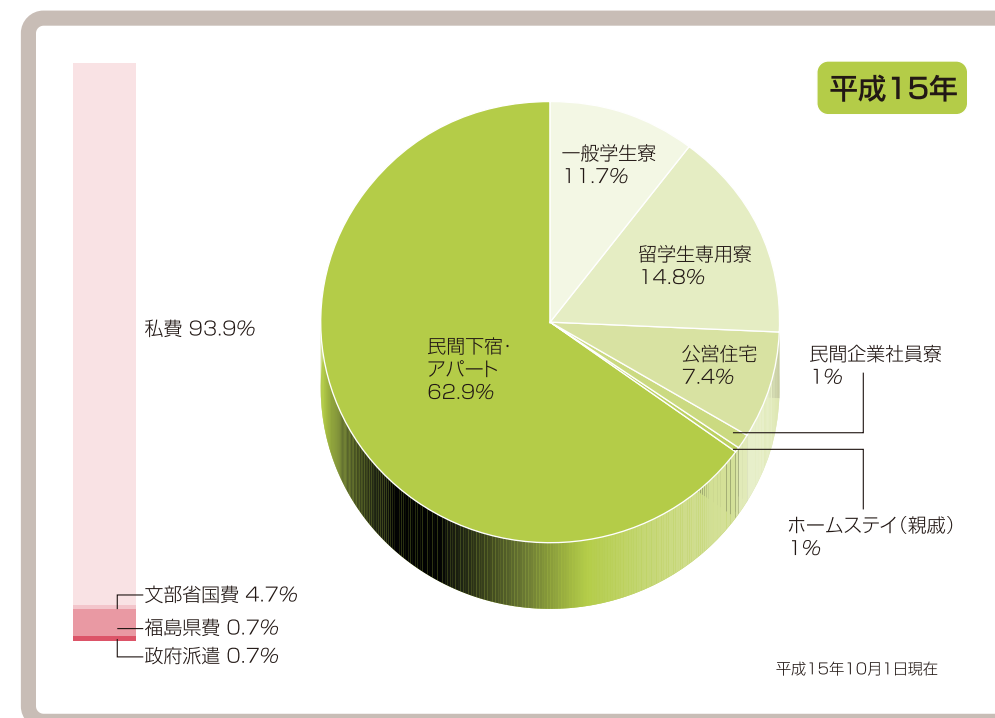
## 留学生の奨学金受給状況



※留学生受け入れがない大学は、計上していません

各年10月1日現在

## 留学生の寄宿状況





## 平成16年度 福島県留学生交流推進会議構成員・運営委員名簿

## 1. 高等教育機関

(平成16年10月1日現在)

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先				備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	T E L	F A X	
福島県立医科大学	学 長	茂田 士郎	学生部長	藤田 慎三	〒960-1295 福島市光が丘1	学生部 学生課	024- 547-1095	024- 547-1989	
会津大学	学 長	池上 徹彦	学生部長	浅田 智朗	〒965-8580 会津若松市一 箕町鶴賀字上居合90	学生部 学生課	0242- 37-2515	0242- 37-2526	
会津大学短期大学部	学 長	池上 徹彦	学生部長	近藤 哲	〒965-8570 会津若松市一 箕町大字八幡字門田1-1	事務 グループ	0242- 37-2301	0242- 37-2412	
奥羽大学	学 長	清水 秋雄	学生部長	南 鉄男	〒963-8611 郡山市富田町字三角堂31-1	学生課	024- 932-9117	024- 933-7372	
日本大学工学部	学 部 長	小野沢元久	学生課長	吉田 廣幸	〒963-8642 郡山市田村町徳定字中河原1	学生課	024- 956-8633	024- 956-8795	
郡山女子大学 郡山女子大学短期大学部	学 長	関口 富左	国際交流推進 委員会主任	真船 均	〒963-8503 郡山市開成3-25-2	学務部学 生生活課	024- 932-4848(代)	024- 933-1958	
いわき明星大学	学 長	高重 正明	学生部長	勝又 春次	〒970-8551 いわき市中央台飯野5-5-1	秘 事 室	0246- 29-7190	0246- 29-5105	
東日本国際大学	学 長	鎌倉 孝夫	国 際 センター長	船生 敏夫	〒970-8567 いわき市平鎌田字寿金沢37	国 際 センター	0246- 35-0410	0246- 35-0410	
いわき短期大学	学 長	田久昌次郎			〒970-8568 いわき市平鎌田字寿金沢37				
福島学院大学 福島学院大学短期大学部	学 長	下平尾 勲	国立東洋学大 学交流担当	エディタ・サビツカ	〒970-0181 福島市宮代乳見池1-1	教 務 課	024- 553-9657	024- 553-3222	
桜の聖母短期大学	学 長	上野 壽枝	学生部長	小泉 泰宏	〒960-8585 福島市花園町3-6	学 生 部	024- 534-7137	024- 531-2320	
福島工業高等専門学校	校 長	安久 正紘	教 授	大森 房子	〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾30	学 生 課 教 務 係	0246- 46-0732	0246- 46-0742	
福 島 大 学	学 長	白井 嘉一	副 学 長	山川 充夫	〒960-1296 福島市金谷川1	教 務 課 留 学 生 係	024- 548-8055	024- 548-8224	

## 2. 国及び地方公共団体

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先				備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	T E L	F A X	
仙台入国管理局郡山出張所	所 長	百々谷 章			〒963-8024 郡山市朝日2丁目22番7号		024- 936-3231	024- 936-3229	
福 島 県	知 事	佐藤栄佐久	生活環境部長	松本 友作	〒960-8670 福島市杉妻町2-16	生活環境部 生活環境課 国際交流推進課	024- 521-7182	024- 521-7919	
福 島 市	市 長	瀬戸 孝則	総務部長	黒沢 勝利	〒960-8601 福島市五老内町3-1	総 務 部 総務課	024- 525-3739	024- 525-3194	
郡 山 市	市 長	藤森 英二	総務部次長兼 庶務課長	水澤 照夫	〒963-8601 郡山市朝日1丁目23-7	総 務 部 庶 務 課	024- 924-2031	024- 924-0956	
い わ き 市	市 長	四家 啓助	企画調整部長	前田 直樹	〒960-8686 いわき市平字梅本21番地	企画調整部 都市交流課	0246- 22-7415	0246- 22-7609	
会津若松市	市 長	菅家 一郎	企画政策部長	佐藤 哲夫	〒965-8601 会津若松市東栄町3-46	企画政策部 企画調整課	0242- 39-1201	0242- 39-1400	
福島県教育委員会	教育長	富田 孝志	政 策 監	野崎 直実	〒960-8688 福島市杉妻町2-16	教育総務領域 総務企画グループ	024- 521-7757	024- 521-7969	
福島県市長会	会 長	藤森 英二	常務理事兼 事務局長	大内 忠夫	〒960-8043 福島市中町8-2 福島県自治会館		024- 522-6682	024- 524-0322	
福島県町村会	会 長	富永 武夫	常務理事兼 事務局長	羽根田 一郎	〒960-8043 福島市中町8-2 福島県自治会館	総 務 課	024- 523-0131(代)	024- 522-9279	

## 3. 経済団体等

機関・団体名	構 成 員		運 営 委 員		連 絡 先				備 考
	役 職	氏 名	役 職	氏 名	住 所	担当課	T E L	F A X	
(財)福島県国際交流協会	理 事 長	佐藤栄佐久	専務理事	大谷 正洋	〒960-8102 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階		024- 524-1315	024- 521-8308	
福島県商工会議所連合会	会 長	坪井 孚夫	幹事兼事務局長	関場 光雄	〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま8F	総 務 部	024- 536-5511	024- 525-3566	
福島県商工会連合会	会 長	田子正太郎	専務理事	宮前 弘	〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま8F	総 務 部	024- 525-3411	024- 525-3413	
福島県経営者協会連合会	会 長	小針 健治	専務理事	菅野 英治	〒960-8041 福島市大町4-15	事 務 局	024- 521-3350	024- 521-3420	
福島経済同友会	代表幹事	友田 昇	事務局長	松野 義廣	〒960-8041 福島市大町3-25 東邦銀行本店内(財)福島経済研究所内		024- 523-3171	024- 522-5663	
出日本青年会議所東北 地区福島ブロック協議会	会 長	弓田 修司	運営専務	冠木 成彦	〒960-8041 福島市大町1-13 第2長谷川ビル3F		024- 528-1145	024- 528-1146	
ライオンズクラブ 国際協会332-D地区	地区ガバナー	松田 則保	YE委員長	金澤 博信	〒963-0102 郡山市安積町 笹川字彼岸塚22-9		024- 937-0830	024- 937-0831	
国際ロータリー第2530地区	米山記念奨学会 委員会委員長	桑島 利力			〒964-0960 二本枚市若宮2-159-7		0243- 23-3387	0243- 23-8008	
国際ソロプチミスト福島	国際親善と 理解活動委員長	呉竹 春美	会 長	秋月 元子	〒960-8031 福島市栄町7-33 (株)福島トヨビル2F	事 務 局	024- 523-3423	024- 523-4849	

## 福島県留学生交流推進会議要項

## (目的・設置)

第1 福島県内における留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するため、福島県留学生交流推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

## (定義)

第2 この要項において「留学生」とは、教育、研究指導を受ける目的で入国し、福島県内の高等教育機関等に留学する者をいう。

## (組織)

第3 推進会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 福島県内の高等教育機関(福島大学を除く。)、国及び地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体等の長又は代表者1名
- (2) 福島大学長
- (3) その他推進会議が必要と認められた者若干名

## (協議事項)

第4 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するために、福島県内の留学生について、受入れの促進、生活環境の改善及び地域住民との交流等について協議する。

第5 推進会議に議長を置き、福島大学長をもって充てる。

2 議長は、推進会議を招集する。

## (会員以外の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、推進会議の同意を得て、構成員以外の者を出席させることができる。

## (運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、福島県留学生交流推進会議運営委員会(以下、「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

## (事務)

第8 推進会議の事務は、福島大学事務局教務課において処理する。

## (その他)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営等に関する必要な事項は、推進会議において別に定めることができる。

## 附則

この要項は、平成2年2月22日から施行する。

この要項は、平成13年12月13日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

この要項は、平成15年1月30日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

## 福島県留学生交流推進会議運営委員会要項

## (趣旨)

第1 この要項は、福島県留学生交流推進会議要項第7第2項に基づき、福島県留学生交流推進会議運営委員会(以下「運営委員会」という。)について定めるものとする。

## (組織)

第2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 推進会議要項第3第1号の団体から選出された者
- (2) 福島大学副学長
- (3) 福島大学から選出された者若干名
- (4) その他運営委員会が必要と認められた者若干名

## (審議事項)

第3 運営委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 宿舍確保の促進に関すること。
- (2) 奨学助成制度の充実に関すること。
- (3) ホームステイ等の拡充に関すること。
- (4) 地域住民との相互交流の確立に関すること。
- (5) その他、推進会議の目的を達成するために必要な事項。

## (委員長)

第4 運営委員会に委員長を置き、福島大学副学長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

## (事務)

第5 運営委員会の事務は、福島大学事務局教務課において処理する。

## (その他)

第6 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営等に関する必要な事項は、運営委員会において別に定めることができる。

## 附則

この要項は、平成2年2月22日から施行する。

この要項は、平成13年12月13日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

この要項は、平成15年1月30日から施行し、平成14年4月1日から適用する。